

平成23年度

第1回 南丹市子

8月25日、日吉町生涯学習センターで第1回目がスタート。南丹市内の各小学校5・6が参加し、社会や世界に向けての意見、身の回りの出来事など選択したテーマに沿って、

「二年生、声小さいで。もっと出して！」私がクラブ中に必ず一度は言う言葉です。私が、女子バレー部のキャプテンを任されて約一年が経ちました。四月に加わった新一年生の人数は、なんと十一人。部員数はそれまでの八人から倍以上



南丹市長賞

怖い先輩

南丹市立園部中学校3年

桐 ちか子さん

上の十九人に増えました。しかし大人数になって嬉しい反面、私の心にはチームをまとめていけるのかという不安も渦巻いていたのです。いざ練習を始めると、心配していた通り一年生は動きが遅く、返事もしません。まだ敬語が使えず、何度注意しても声が小さい人もいました。

私達バレー部では、ルールやマナーを一年生に指導するのは二年生の役目です。それは三年生が引退してから二年生がしっかり指導できるようにするためです。しかし、二年生は一年生に甘く、全く何も言いません。そんな二年生に声を掛ける三年生もおらず、私自身もどこかしさを感しながらも自分の練習を優先してしまっていました。「私は自分のプレーに集中したい。指導をするのは二年生に決

まっているのだから。」そんな風に入任せな気持ちで、チームに漂う悪いムードを見て見ぬふりをしていたので。そんな私の心を見透かしたかのように徐々に一年生が声を出さなくても誰も注意しなくなっていました。

このような状態が何日か続いたある日、顧問の先生はおっしゃいました。「あなたたちは、一年生は何も分らないのに、何でほったらかしなん？一年生は声が全然出てないのに何で何も言わないの？あなたたちは今までどうやって、誰に育ててきてもらったん？あなたたちが今こうしてられるのはあの厳しくて怖い先輩がいたからじゃないの？」と。

私はハッとしました。思い出したのです。私が今こうしてられるのは、私達が一年生のときにいた怖い怖い先輩のおかげなのだ。

一年生の頃、練習試合でボールケースを忘れたときには、「練習は何を使ってするの？それにボールを貸してもらえばそれだけ、他校の方に迷惑をかけることにもなるんやで！」準備が遅いとミーティングで「少ない練習時間を、もっと短くしてしまうのも充実したものにするのも、それは自分たちの準備次第でしょ！」普段の練習で